

## 編集後記

今シーズンは、山陰地方、北陸地方、東北地方、北海道の日本海側では、数十年ぶりといわれる豪雪でした。多くの方々が苦難に見舞われ、御苦勞をされています。春を待つ山々の積雪の様子はいかがでしょうか。

今年も3月に12回目となる「山のトイレを考えるフォーラム」を開催することとなりました。多くの皆さんに支えられて、継続することの大切さをかみしめながら頑張っています。

今回の資料集第一部では、フォーラムテーマである「本州の山トイレ事情・土壌処理に学ぶ」について、講演、アドバイザー報告をお願いしましたお二人の内容を掲載しています。神奈川県自然環境保全センターの吉田様からは、丹沢・大山山塊での土壌処理方式の山岳トイレ維持管理について、日本環境整備教育センターの岡城様からは、山岳トイレの土壌処理技術の核心についてお話しを頂きました。お二人ともお忙しいなか札幌までおいで頂いての講演、本当にありがとうございました。

第二部の資料編には、今回も全国からいろいろの話題を提供頂きました。道内からは、利尻町の佐藤(雅)様と稚内自然保護管事務所の岡田様との共著による利尻山山岳年報で継続して記録に残す大切さを伝えて頂きました。知床の携帯トイレの使用状況をウトロ自然保護管事務所の中村様より紹介頂きました。日高・幌尻山荘の御苦勞の状況が今年も高橋様から届きました。長年に渡って大雪山国立公園を守ってこられた大雪山国立公園パークボランティア連絡会の皆さんの活動を岡花様より紹介頂きました。

本州からは、岩手県の避難小屋トイレ(土壌処理方式)の様子を千葉様より紹介頂きました。飯豊連峰・朝日連峰において活発な地元地域での協働の取組みを羽黒自然保護管事務所の坂本様、佐々木様より紹介頂いています。北海道の私達も、なんとか手本にしたいものです。長野県伊那市の白鳥様からは山中間として伊那市の山岳トイレの現状を紹介頂きました。四国・石鎚山の山岳トイレ整備の検討状況を、検討委員会の白石様より話題提供頂きました。日本山岳会の山川様から力作の屋久島への提言を中心にして山岳トイレのあり方を考えるとして寄稿頂きました。北海道の山々の山岳トイレに対してもあてはまることです。ぜひ提言に目を通して頂きたいと願っています。

本資料集に寄稿頂きました皆様、お忙しいなか本当にありがとうございました。深く感謝申し上げます。

この12回目の資料集を、例年通り皆様のお手元に届けることが出来る喜びと共に、少しでもお役にたてるようにと願っています。

(小枝 正人)